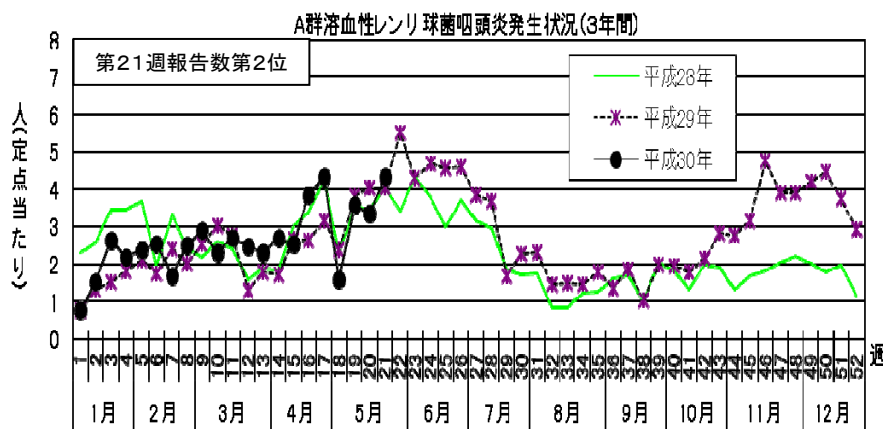
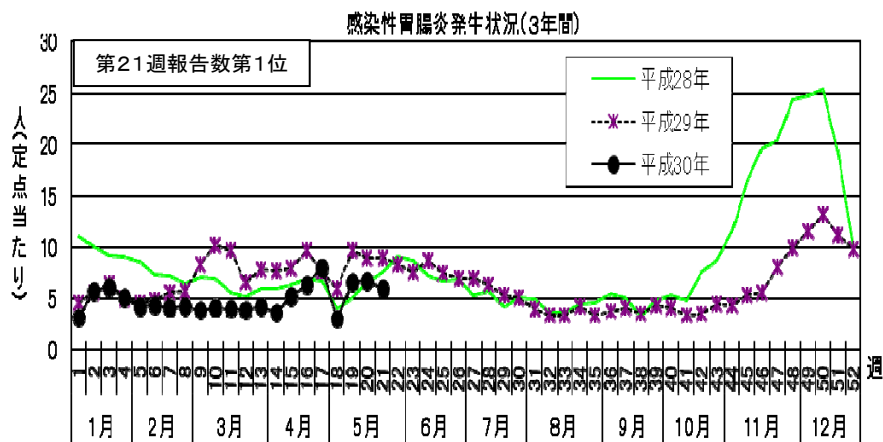


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年5月21日（月）～平成30年5月27日（日）〔平成30年第21週〕の感染症発生状況

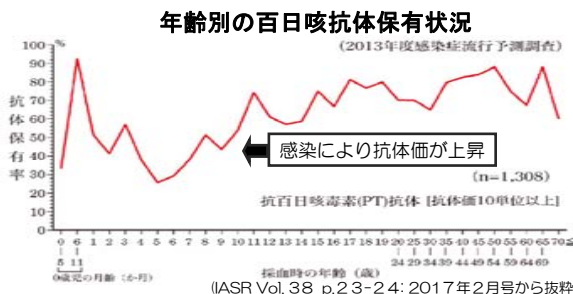
第21週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。  
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.95人と前週（6.65人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.35人と前週（3.35人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。  
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週（2.89人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



## 気をつけたい感染症～百日咳～

百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の細菌感染症で、とまりにくい咳発作を特徴とします。かつては、乳幼児を中心に大きな流行がみられましたが、ワクチンの普及とともに患者数は激減しました。しかし、乳幼児期の予防接種の効果は4～12年程度で減弱するため、近年では青年や成人での患者数が増加し、平成30年1月1日から全ての百日咳患者の届出が義務付けられました。全国における平成30年第1週から第20週まで（1月1日～5月20日）の届出のうち、小学校高学年以上の報告数は全体の60.5%を占めています。

ワクチン未接種の乳児は重症化しやすいので、特に小さなお子さんがいらっしゃる家庭では咳等の症状に注意しましょう。



### 百日咳とは？

**感染経路：**咳やくしゃみ等による飛沫・接触感染

**潜伏期間：**約7～10日

**症状：**かぜ症状で始まり、長く続く咳に加え、短く激しい咳が連続して起こり、笛の音のような音が出る咳発作といった特徴的な症状を示す。

**治療方法：**適切な抗菌薬での治療

**予防方法：**ワクチン接種



### 全国における百日咳年齢階級別発生状況 -平成30年第1週～第20週-

